

## 施設依存から在宅重視へ

今までの福祉に対する考え方は、施設を造って、そこに障害者を入れるという、いわゆる施設依存型が中心でした。特に、富士市の場合、福祉施設がととのっているため、このような傾向が強いといえます。

障害者にとって、施設に入ることが本当の幸せにつながるのかというと、必ずしもそうばかりとはいえません。ある障害者福祉施設の職員は「私たちが、施設でどんなによく面

倒をみても、親には絶対になわなない。」また、「施設に入ってしまうと、家族や地域の人たちと接触が少なくなり、孤立しがちです。」と話します。

これからの福祉は、障害者が自分の家で安心して生活できるような福祉、いわゆる在宅福祉を中心にすすめるべきだという声が高まりつつあり行政としてもその方向にすすんでいます。

市が独自で始めたこの心身障害児(者)短期保護事業も、在宅福祉行政の一つといえます。

# 在宅福祉へのワンステップ

## 大きな支えとなる短期保護制度

では、この心身障害児(者)短期保護事業について、その概要をお知らせします。この事業は、心身障害児(者)を介護している人が、病気、冠婚葬祭などの理由により、一時的に障害者の介護ができなくなったとき、施設で心身障害児(者)を預るといいます。預る施設は、大淵岩倉の社会福祉法人、誠信会。預る期間は7日以内です。

費用は、1日当り4,000円ですが、このうち個人負担は1,200円。残りの2,800円は市が負担します。

申込み先は、市児童課 内線344

この事業について、野辺さんは「障害児をもつ家庭にとって、このような制度ができたということは、大変ありがたく、心のよりどころにもな

っています。急用のときなどは今まで、家族や親戚にたよらざるをえなかった家庭も、このような制度があれば安心です。」と話しています。

最後に野辺さんは、「私たち家族は、重度の障害を持つ息子にとって、一番の幸せは何かということを中心に考えてきました。これからも、この子を中心に生活していきたいと思っています。」と熱いまなざしで話していました。



あの街



わたなべけいこ  
渡辺慶子さん(34歳)  
(橋下)

### プロフィール

愛媛県生れ。横浜市に永く住んでいましたが、1年8ヵ月前に夫の転勤により富士市民となりました。小学校3年と幼稚園児の2人の娘のママさん。

横浜との違い？そうねエ……。やっぱり市民意識の違いを感じます。富士ではプライベートなことに興味を示すことが多く、その割に行政のことには知らん顔みたい。市政にもっと関心を持ってほしいのではないかしら。

横浜では、市民生活を守ることにも配慮がされています。たとえば、食品や洗剤公害をなくすことや、交通安全、特に歩行者保護に力が入られています。PTAの活動にも違いが見られます。父母がもっと主体的でし、クラスこん談会でも父母がリードし、先生は聞き役。市民としての活動が活発なんですね。

そういえば、こちらは共働き家庭が多いわね。横浜ではクラスに三〜四人でしたが、こちらは逆ですもの。そのせいかしら、子供の持ち物や服装にはお金がかかっている感じ……。でも、家族でいっしょに過ごすことが少ないようですね。恵まれている地域ですから、富士市なりの文化がもっと育ってほしいですね。